

【聖書箇所 요약】

周囲の人々から聞く悪い噂に影響されて、家族がイエス様を取り押さえに来ました。イエス様は、神の家族とは血縁ではなく、神の契約で結ばれた新しい関係であることを示されました。

1. 人格としての家族

A. イエス様への一般的見方

- (1) 30歳からの公生涯のみを知る
- (2) 旧約聖書で約束された救い主

B. 家族の見方はどうであったか？

- (1) 30年間一緒に過ごした存在
 - ・ 同じものを食べ、一緒に仕事をした息子であり兄
- (2) 噂に揺り動かされる
 - ・ 噂は無責任、利益誘導のため
 - ・ 真偽とその正体を確かめる必要がある



C. 一個の独立した人格として

- (1) 子は親の所有物ではない
- (2) 選択の自由と責任
 - ・ 高校生へのカウンセリングで学んだこと

2. 親子関係の現実的選択

A. 境界線を守る

B. 賢い判断

- (1) 第三者を介在させる

「さて、イエスの母と兄弟たちとがきて、外に立ち、人をやってイエスと呼ばせた。」 (31節)

親子関係の問題では、往々にして両者が感情的になります。ですから、当事者同士が直接会わずに、間に第三者を介在させて交渉した方が問題解決の方向に向かいやすいのです。

- (2) 群衆は更に敏感

「ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、『ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます』と言った。」 (32節)

これに対して群衆の方が更に敏感に反応しました。人々は一瞬、自分たちとイエス様との間に線を引いたのでしょう。「この方にもプライベートな関係がある。我々はその中に立ち入るべきではない。」



3. 神の家族

A. 一触即発の状況

「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」 (33節)

B. 血縁ではなく契約によって結ばれる家族

(1) 血縁関係の強さ

(2) 人々の心を見抜かれるイエス様

・血縁が最強の絆ではなく、神の約束が最強であること

(3) 契約は信仰によって結ばれる

●神のみこころを行うとはどういうことでしょうか？それは既に旧約聖書の律法に記されています。しかし罪人の私たちはそれを完璧に行うことはできません。ですから、神は御子イエス・キリストをこの世に遣わし、彼を信じる者の罪を赦されるという恵みのわざを成就なさいました。

神の御心とは、私たちがイエス様を信じて永遠の命をいただくことです。そこをスタートラインとし、更に進んで神の支配に服従し、信仰を通しての交わりを持つ者は、血縁関係以上のつながりを持つことが出来るのです。



イエス・キリストによる罪の贖いと赦しの福音を信じ、神の約束の確かさを信じましょう。そこにおいて誰でも神の家族として迎えられます。

— 祈禱会説教 —

イエスに出会った人々シリーズ (その14)

家族になろうよ

- 31 さて、イエスの母と兄弟たちとがきて、外に立ち、人をやってイエスを呼ばせた。
- 32 ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます」と言った。
- 33 すると、イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。
- 34 そして、自分をとりかこんで、すわっている人々を見まわして、言われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる。
- 35 神のみこころを行う者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

(マルコによる福音書 第3章31節～35節)



2017
12 / 13
説教
丸山 芳浩 師